

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和元年8月7日(水) 開 会 午後 4時00分
閉 会 午後 5時30分
2. 会 場 茅野市役所 705会議室
3. 出席者 市長 今井 敦 教育委員長 山田 利幸
職務代理者 矢崎 靖雄 教育委員 小平 光子
教育委員 濱 勝之 教育委員 永嶋 陽子
出席職員 企画部長 加賀美 積 こども部長 有賀 淳一
生涯学習部長 平出 信次 企画財政課長 小平 雅文
こども課長 五味 健志 幼児教育課長 五味留美子
学校教育課長 五味 正 生涯学習課長 藤森 隆
公民館長 矢島喜久雄 文化財課長 両角 勝元
スポーツ健康課長 中村 浩明 こども係長 宮下 孝
教育総務係長 立石 淳二 生涯学習係長 伊藤 研一
教育総務係主事 牛山 紘貴
4. 傍聴者 3名

茅野市総合教育会議次第

令和元年8月7日(水) 午後4時00分～
茅野市役所 7階 705会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 新学習指導要領実施に向けた取組状況について

(2) 生き方教育について

(3) 今後の教育施策について

(4) その他

4 閉 会

学校教育課長

只今から、茅野市総合教育会議を開催いたします。茅野市総合教育会議運営要綱6条に基づき本日の会議を公開として開始したいと思います。

はじめに、市長より挨拶をお願いいたします。

市長

本日は大変お忙しいところ、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

本日は茅野市の教育について関係部局と意思統一をして、進めていく必要があると考えています。茅野市も英語教育、ICT教育、道徳教育等に取り組んできているところです。そのような教育の中に私ももう一つ検討していただきたいと思っている事項もありますので、後ほど触れさせていただきたいと思います。

皆さんで茅野市の子ども達が、明るく元気よく育っていけることを考えていければと思います。よろしくをお願いいたします。

学校教育課長

この後の議事につきましては、今井市長に進めていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

市長

それでは、私のほうで議事を進めさせていただきます。

はじめに、議事1「新学習指導要領実施に向けた取組み状況について」学校教育課長から説明をお願いいたします。

学校教育課長

ご用意させていただきました、資料に沿って説明をさせていただきます。

新学習指導要領は小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面实施となります。特別な教科の道徳につきましては、小学校では平成30年度から、中学校では令和元年度から全面实施がされています。

英語教育の小学校外国語活動では移行期間が平成30年度から令和2年度として位置付けられました。今年度は15時間増の50単位時間の確保が示されました。茅野市では令和2年度の全面实施と同様に70単位時間を平成30年度から先行実施しているところです。

資料は2018・2019年度山岡指導主事の外国語活動支援についてとなっています。昨年度に引き続き今年度も市費英語外国語担当の山岡指導主事が学校を訪問し、学習状況や学習環境、課題等に応じて支援・指導を行っていただいています。

指導主事の業務内容についてですが、英語を使って何が出来るようになるのかを視念にコミュニケーション活動の一層の充実を図るということで活動をされています。

小学校・中学校訪問について今年度、小学校は6月と11月に教育指導主事が昨年度並みに原則週4日間訪問支援を行っております。その他の月は、年10回の訪問を派遣申請に基づいて訪問支援をする予定です。基本日程につきましては、下表をご覧いただきたいと思っております。

続いて、年間行計画についてです。

小学生イングリッシュキャンプを7月25日から青少年自然の森で開催をしました。

茅野市と原村の小学生が70名参加しました。

現在、渡米されていますが、7月30日から8月10日までロングモントにてホームステイをされています。また、10月26日には小学生英語の集いイングリッシュセッションということで、予定をしています。

続いて、成果と課題になります。完全実施後は、原則担任が英語授業を行うこととなります。英語専科教員の配置は望めないため担任の力量アップが課題と考えています。また、各担任とも力を付けてきていますが、3～4年で異動してしまうというような現実もあります。小学校英語教諭の中には旧来の文法英語を主とする授業観の教員が多い状況となっています。新しい英語教育観にどう教職員の力量をつけていくかが課題であります。これは長野県全体での課題でもあります。

しかしながら当市の英語の実施については県下において先進的な位置であります。

続いて、茅野市ICT教育の推進についてご説明させていただきます。

グローバル化・高度情報化社会等、変化の激しい時代にも対応できる「生きる力」の育成ということで、2020年の学習指導要領からは、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成と教科横断的カリキュラムマネジメントの必要性が考えられています。

第1次茅野市ICT教育推進計画を作成し、ICTの推進を図っているところです。

ICT教育推進のための5つの方針を設けています。

1つ目の情報教育の充実では、児童生徒に情報リテラシー、情報モラル、情報セキュリティの3つの能力を育むため、情報教育の充実を図っています。

2つ目のプログラミング教育の推進では、児童生徒に論理的思考力を育成するための学習活動を実践できるよう、プログラミング教育を推進しています。昨年度は全小学生にてスクラッチを用いたプログラミング学習を実施しました。また、ICT支援員を10月から配置しています。

3つ目の特別支援教育におけるICT活用では、支援を必要とする児童生徒の学習意欲と集中力を向上させ、個人の特性に応じた学習支援を行うため、特別支援教育においてICTを活用しています。昨年度は学習者用のタブレットとして、アイパッドを在籍2人に1台を目安に配備しました。また、指導用タブレットとして、アイパッドを学級数分配備しました。

4つ目の授業におけるICT活用では、児童生徒が興味関心を高め、多角的に学びを深めるため、授業におけるICTの活用を進め、より質の高い授業への発展に向けた取組みを行っています。昨年度は普通教室への大型テレビやデジタルコンテンツ配信システムの配備と無線LAN環境の整備をしました。今年度は特別教室への無線LAN環境の整備やICT支援員の追加配備をしました。

5つ目のICT支援体制の整備では、ICTを活用した授業の支援・相談を実施する体制の整備と校務支援システムの導入により、校務の効率化を図っています。昨年度はICT支援員の配備をしています。今年度については、支援員の2名体制の配備や職員室・特別教室への無線LANの整備をしています。

最後にICT教育に関する成果と課題についてとなります。

重点1の情報教育の充実については、課題として新環境に即したセキュリティー方針の策定が必要と考えています。

重点2のプログラミング教育の推進については、プログラミング教材の予算措置が大きな課題となっています。

重点3の特別支援教育におけるICT活用については、特別支援学級教室のICT環境の整備が課題となっています。

重点4の授業におけるICT活用については、デジタルコンテンツの充実と予算措置や中学校教員へのiPad配備が不足となっています。

重点5のICT支援体制の整備については、PCリテラシーを育成するための、PC教室の新たな環境整備に即した充実を行う予定となっています。

なお、茅野市は、ICT教育を実施するための環境整備について、県下では先進的な位置となっています。

続いて、特別な教科道徳についてご説明させていただきます。

特別な教科道徳に変更となった背景については、深刻ないじめへの対応、道徳の授業時間の確保、子どもをとりまく地域や家庭の変化、情報通信技術の発展と子どもの生活の変化、自己肯定感や社会参画への意識などが変更となった背景となっています。

特別教科化で目ざすものは、量的確保や質的転換などです。

茅野市では「21世紀を切り拓く 心豊かで たくましく やさしい 夢のあるひとづくりの茅野市教育」実現の基本方針として、2018年に「心のよつばクローバープラン」を策定しています。

今後の取り組み課題として、特別な教科道徳を「生き方」教育としてのトータルな位置付けが必要であると考えます。詳細の「生き方」教育については教育長より説明をいただきます。

続いて、主体的・対話的で深い学びについて説明をさせていただきます。

新学習指導要領では、学校で行われる教育活動を通して育成を目指す「資質・能力」を3つの柱に整理しています。

「主体的・対話的で深い学び」は資質・能力を育成するための、教師の「授業改善の視点」として位置づけられており、茅野市小中学校では、授業研究・授業改善共通の視点として「主体的・対話的で深い学び～学びの豊かさ・確かさ～」を据えています。「主体的・対話的で深い学び」を授業観としてとらえ、学力とは「学びの豊かさ 確かさ」として定義しています。このことを念頭に、自由な発想・考えを生かし授業者・学校が主体となって授業研究・改善に各校が取り組み、実践が深められています。特に各校、各先生方の自由な発想・考えの育成こそが、授業改善の要であると考えています。

また、これまでの信州教育で取り組んできた「子どもの深いとらえに立った授業づくり」を大切に、課題意識を明確にした学びにより、一人ひとりの子どもが学ぶ楽しさを実感できる授業を目指しています。各教科学習において課題解決型の学習のみならず探究的な学習が展開されるよう授業改善を推進することが今後の課題と考えています。

さらに、「資質・能力」の3つの柱の一つである「学びに向かう力、人間性等の涵養」に関わる具体的展開が、令和2年度以降の「生き方教育」としての課題です。

続いて、子どものための働き方改革についてとなります。教職員の多忙化を解消し、質の高い授業が行われるよう、児童生徒と向き合う時間を増やし、子どものための時間を作るという観点から、教職員の時間外勤務の削減や業務の見直しなどに取り組んでいます。

ここ数年ですが、問題を抱える子供や家庭が増えてきています。学校が専門外の内容や学校だけでは解決できない内容が増えてきています。子ども・家庭への丁寧で質の高い支援が求められています。しかし、どこへ相談すればいいのかわからないなどの悩みがありました。このことを受けて総合窓口一本化や学校へのサポート体制として、子ども家庭総合支援拠点「育ちあいちの」を昨年度設置しました。学校や保護者からの相談に対し、質の高い支援に取り組んでいます。

新学習指導要領実施に向けた取組状況については以上となります。

市長

ありがとうございました。委員の方々からご意見を頂きたいと思います。

矢崎委員

I C T教育の中でプログラミング教育の「S C R A T C H」とは具体的にどのようなものなのでしょうか。

教育長

プログラミング学習で使用するソフトが何種類かあります。その中で scratch が最も一般的であり、具体的には簡単なプログラムをすることによって、図形やロボット等を動かせるソフトです。永明小学校が先行実施しています。

プログラミング学習というと何かプログラムを作るための学習と捉えられてしましますが、物事を順番に論理的に考えていくための学習となっています。

市長

ありがとうございます。続いて、小平委員お願いいたします。

小平委員

先程の説明を聞き、親の身になって考えたときに学校でもタブレットを使っているの、家庭でも必要なと感じる保護者もいるのではと、ふと思いました。

教育長

今のところそのような傾向はありません。東海大諏訪高校では自分のスマートフォンで学習するという方法を採用しています。

6月30日に学校教育の情報化の推進に関する法律が公布されました。このことにより国はさらに責任を持ってやっていく必要が出てきました。ただ、地方公共団体は努力義務となります。一昨年から市で実施してきた方法は国の方向と一致しています。少しは自信を持ってもいいように感じます。

市長

ありがとうございます。続いて、濱委員お願いいたします。

濱委員

ICT教育について、茅野市が県下で先駆けて推進していることは、とても素晴らしいことだと思います。今後、どのように変わり、どこに向かっていくかということについて、気にはなっています。学校の教育という中で、タブレットを使ってどこに向かっていくのか気になります。

教育長

その点について、機器の使用に慣れること。実生活にどのように繋げていくか。タブレットを使用して資質・能力をどのように伸ばしていくかについて、一連の計画はできています。

それが無いと、機器を購入して、ただ利用するだけになってしまいます。

一時期、OHP というものが流行ったと思います。昭和45年からOHPを多く購入しましたが、ほとんど使わずに終わってしまいました。それは、教員のための教材掲示用としてだけで、子ども達の学びの材料とはなっていませんでした。そこから学び、プログラミング学習を学ぶ資材にしていかななくてははいけません。

ここから大きく転換していかななくては、ただの機械となってしまいます。計画についても確認をしていただければと思います。

市長

ありがとうございました。続いて、永嶋委員お願いいたします

永嶋委員

プログラミング教育の論理的思考力を育成することを、小学校のうちにスタートさせ、実施するというのは、とても素晴らしいと思います。

自己を確立していく小学生の段階にやるということは、とても必要なことだと感じます。機器の操作に慣れるというのは、10年すれば大きく環境が変わると思いますが、この小学校の時を大切に過ごすことが、大事だと感じます。このことを保護者の方にも宣伝できればなと思っています。現在の若い方は機械に得意とは言われていますが、一部に難民と言われている方が沢山います。どうして難民となってしまったか考えると、その部分が抜けてしまっていたのではないかなと思います。そのようなことからすごく良い取り組みだなと感じました。

市長

ありがとうございました。教育に関して、できる限り思いが反映できるように努力したいと思います。

続いて。議事2「生き方教育について」お願いいたします。

教育長

仮称ですが、生き方教育について説明をさせていただきます。

これからの時代をどう考えるかについて、学習指導要領の前文に使われている言葉では、これからは厳しい時代の挑戦とされています。また予想が困難な時代とも書かれています。そのような中で一人ひとりが、これからの社会の担い手として、生きていき、新たな価値を創造していく必要があります。

実際に文科省で考えられていることは、2030年以降の社会を展望した教育施策や Society5.0 の実現に向けた教育が考えられています。

茅野市で今後を考えたときに、人口構成の変化では2040年には40%が65才以上とされており、地区による人口減少と人口構成の大きな変化が生まれます。宮川や永明の市街地は大きな偏狭は受けませんが、小さい地域では8割が高齢者となります。その中でどのようにして学校を支えていくか、課題が10年後に見えてくるのではないかと思います。

産業の活性化も大事であり、私自身は国で考えている動向よりも厳しい環境になるのではないかと予想しています。

そうした時に、茅野市の教育の10年先を見越した歩みを開始していくときだと感じています。

どのような教育を創造していくかでは、自分の生き方や自分たちが生きていくまちの未来をえがく子どもを育てる教育を真剣に考えていく必要があると思います。

具体的には、読書・図書館教育から小中一貫教育をはじめとして、全国に先駆けた実践を展開してきていただきました。また、次期学習指導要領の完全実施にむけた基本的な骨格はできあがりつつあります。

そのような中で、茅野市の教育に今後求められていくことは、自分の生き方や自分たちが生きていくまちの未来をえがく教育をしなければなりません。

自分の生き方をえがくとは、自分のもっている能力を伸ばし発現させていくことです。何か一般的な平均線があり、その平均に近づけることも大事ですが、そこから一人ひとりの個性の中で、さらに伸びていくものがあるだろうと考えます。

自分たちが生きていくまちの未来をえがくとは、まちづくりの貢献に具体的に参画していくことです。2年前の縄文科の実践の中で、北部中学校の子ども達がまちづくりに対してアイデアを発していく方向が生まれてきています。

また、幼保小中高大の全てが揃っている茅野市ですが、生涯学習も含めて一本共通した教育内容の一貫性も必要だと考えています。大人や子供もみんなが自分の生き方やこれからのまちづくりについてえがいていけるようにしたいと思います。

どのような育ちの姿を具体的にねらうかについては、インタープリテーションの能力を身に付けることをねらっています。キャリア教育では、職業選択教育、進路指導教育に限定され、誤解されていました。キャリア教育は生き方そのものであると捉えなおされ、最先端の教育として展開していこうと考えています。

教育課程への位置づけについては、全教育活動を生き方教育の視点からとらえ直していき、とくに特別活動でのキャリアパスポートをつかった学びを考えていきたいと思っています。また、茅野市版のキャリアパスポートの試案を作成しているところです。9月から試案として、キャリアパスポートを使っていくことを考えています。

市長

ありがとうございました。生き方教育について、ご意見等ありましたら、お願いいたします。

矢崎委員

キャリアパスポートとは具体的にどのようなものか教えていただけますか。

教育長

キャリアパスポートとは文科省で試案が出ていますが、例えば2学期の始業式の時に、自分の目標や目当て等を自分で書きます。2学期の終業式のときに振り返り、どのように成長したかを中学まで通して引き続けていくことです。また、節々の活動等でも活用していきます。それをキャリアパスポートと呼んでします。

市長

ありがとうございました。続いて、小平委員お願いいたします。

小平委員

自己肯定感がなかなか持てない子ども達について、自分が持っている能力を発揮して、自分の意見が言えたりする、そのような力がこれから生き方教育を通して出てきてくれればいいなと思います。

このような取り組みが続いていくように願っています。また、これからは楽しみに思います。

市長

ありがとうございました。続いて、濱委員さんお願いいたします。

濱委員

キャリアパスポートが小学校・中学校で一校ずつ実践されているとお聞きしましたが、いつから実践しているのでしょうか。

教育長

今年度からとなります。文科省の試案は5月の段階で出来上がりました。森田先生を通じて、茅野市版の試案を早急に作成させていただきました。茅野高校ではキャリア教育を独自に進めています。茅野高校ともどこか一致する部分が出てくると思います。

市長

ありがとうございました。続いて、永嶋委員さんお願いいたします。

永嶋委員

人は生まれてから必ず筋が通ったものが何か必要だろうなと思います。生き方を学ぶということは、自分を学ぶことだと思い、生まれてから保育園に入るまでの期間も含めて、ずっと貫き通せるようなものがあればいいなと思います。キャリアパスポートについても、人から評価されるものだと、とてもつらいものになってしまうと思います。自分が自分で作っていけば、自分自身も評価でき、評価できれば学ぶことにもつながってくると思います。目に見えてわかることが必要な時代になってくるのではないかと感じます。是非、教育以外にも及んでいけたらいいなと思いました。

教育長

キャリアパスポートですが、使い方を間違えるとチェックカードとなってしまいます。どのように使っていくかについて、いくつかの大学からコンソーシアムをつくり、一緒に考えていこうという動きも出てきています。実現できればいいなと思います。永嶋委員が言われた通り、自分のためになる、自発的なキャリアパスポートの使い方をしっかり考えていかないとチェックカードになってしまうと思います。そこについては、大きな課題としても捉えています。

市長

ありがとうございました。続いて、議事3「今後の教育施策について」をお話しさせていただきたいと思います。

只今、教育長より茅野市教育の現状を説明していただきました。そのような中で私が考えていたことは、発達障害の子どもたちが割合として増えてきています。医療の研究が進んだ結果もあると思いますが、そうした子ども達が社会への適応能力が中々難しい現状があります。そこで苦勞をしないように考えられた教育も必要ではないかと考えます。

発達障害の子ども達が持っている能力を伸ばしてあげたいという思いがあります。

ギフテッド教育と言われていますが、ギフテッドとは天賦の才があるという意味です。そういった子ども達が自信を持って社会へ出ていくには、その先には就労支援的な形での教育も必要になってくると思います。とくにそのような方々はITの能力や一つの能力に特化している方々が大変多いです。茅野市が続けてきた教育とも十分リンクすると私自身思っています。そうした中で教育長にお願いをさせていただいたところです。

詳細については、教育長よりお願いします。

教育長

私自身の私見も含めて発言させていただきますが、今まで特性がある子ども達の教育に関して、平均の線にどれだけ近づけるかを考えてきたと思います。それについては良いと思いますが、子ども達一人ひとりが持っている個性については、潰されてきてしまったと思います。実際に特性のある子ども達と関わってみると、とても素晴らしい能力を持っています。そのような子どもたちの特性をどのように伸ばしていくか、その切り込み口が市長さんのお考えになられたギフテッド教育にあるのではと思います。ある面では、生き方教育とクロスすることになり、生き方教育の具体性をここで担保していきたいと思います。

現在、先進的に進めている場所に渋谷区、岐阜市等があります。岐阜市と渋谷区での構築はやや違う部分がありますが、その方々にご協力していただければと思います。

ICTと関連して、タブレットの有効利用をし、学校の基礎基本を伸ばすとともに、何か得意なものをこの中で伸ばせるのではないかと考えています。

市長

当初はサマースクール等から始め、そこから大きな形にしていけたらと思います。発達障害に限らず、平等にどなたでも参加できるような学校や教育機関の場所を作ればと感じます。

全体を通して、ご意見等ありましたら、お願いいたします。

全委員

なし。

市長

最後に教育長より一言お願いいたします。

教育長

本日は、このような機会をいただき、ありがとうございます。大きな転換期となってくると思いますが、教育委員さん、市長さんからご指導をいただきながら、新しいものをつくっていきたいと思います。

市長

ありがとうございました。以上で茅野市総合教育会議を閉会いたします。